

大草谷津田生きものの里自然観察会

「春を待つ冬芽たち」

弦巻 滋子(千葉市)

日 時：2009年1月18日（日）10時30分～12時 天気：晴

参加者：11名（大人9名、子ども2名）

担当指導員：岡田敬子・弦巻滋子

暦の上では一年で一番寒い時期“寒”の観察会でしたが、寒とは思えない暖かさとなりました。はじめに「大草谷津田いきものの里」の概要、注意事項の確認をして観察会を開始しました。

今日の観察テーマ「春を待つ冬芽たち」は前回の「草木の防寒対策は？」に引き続き冬芽の観察となりました。早速入口付近の林縁でドウダンツツジの赤い冬芽、ヒメコウジ、コナラ、ムラサキシキブ等の冬芽をルーペで良く観てもらいました。

形、つきかた、大きさ、色、冬芽と一緒に葉痕の形もそれぞれ特徴があることを説明しました。また、コブシかモクレンと思われる大きな切枝が捨てられて居り、毛で覆われている冬芽を観察しながら、モクレンやヤナギの仲間はちょっと暖かくなると、春の陽射しを受け、蕾の南側が膨れて、先端が北を指すので方向指示植物とか、コンパスプラント、磁石の木とか言われていると言う話をしました。「あーそう言えば、昔ネコヤナギが皆同じ方向を向いて咲いていたのを思い出しました」と、参加者の声がありました。

観察路を歩きながらマンリョウ（万両）、カラタチバナ（百両）、ヤブコウジ（十両）の赤い実、ジャノヒゲの青い実、ヤブランの黒い実等をみました。ジャノヒゲの種を弾ませて「むかし良く遊んだもんだ」と言う参加者の方々と話しながら田圃のそばのベンチで一休みしました。ベンチに持参した冬芽のサンプル42種類（内、常緑5種類）を並べて、似たもの同士を比べてみたり、花芽と葉芽のつきかた、裸芽、鱗芽の色々、べたべたの樹脂をつけたトチノキの芽、ムシコブがついたイヌシデ、クヌギ等をみもらいました。

葉痕が大きくてヒツジの顔のようなオニグルミ、サンタさんの顔のようなアジサイ、葉痕や芽をみれば冬でも何の木か分かることも話しました。ルーペを手に、背の低いツリバナやムラサキシキブ、コバノガマズミ等、実際に生えているものの冬芽を観察しながら、下ノ畠の雑木林へ上がり、最初に通った杉林との違いを観察してもらいました。

入口広場に戻って参加者の皆様に感想を伺いました。「葉痕がおもしろかった。」「草木が色々な知恵で、自然に沿って工夫して生きている様子に感心しました。」「俳句を創る参考にしたい。」等々。これを機に街路樹、庭、公園、林等、何処にでもある冬の植物の姿をご覧になってみて下さい。次回も参加をお待ち申し上げております。と伝えて散会しました。